



## お茶大論ロールモデル講演1、2、スペシャルクチャー/ 海外調査報告(ベトナム、韓国)

### 「お茶の水女子大学論」ロールモデル講演 1:「私の履歴書」(2017.6.7)

2017年度「お茶の水女子大学論」ロールモデル講演1(6月7日)は、1999年文教育学部地理学科卒で、現在株式会社TBSテレビに勤められている小林祥子さんをお招きし、入社当時から現在までの仕事内容や携わった番組でのエピソード、学生へのメッセージなどについてご講演いただきました。

小林さんは在学中、現役で活躍中の朝日新聞の女性記者の講演を聞いたことをきっかけに、情報を伝える仕事に興味を持つようになりました。その後、(株)東京放送(現:東京放送HD)に入社して、報道カメラマンやAD、ディレクター、報道記者、プロデューサーなどの現場での仕事、非現場のCSR推進など、様々な業務に携わり、現在は情報システム局システム管理部で、IT技術を利用した働き方改革や、音声認識技術を応用した業務効率化に取り組んでいます。

講演では、今まで携わった番組でのエピソードも含め、大変興味深いお話を色々していただきました。その中でも、特に印象的だったのは、ディレクター時代に担当した朝の情報番組におけるテロップの作り方です。テロップ作りにおける具体的な手順を説明していただき、手書きのメモからテロップを作成する担当や文字の校閲など、様々な人が関わって作られていることを教えていただきました。

また、小林さんのキャリアの定義についても、お話していただきました。小林さんは、自らの経験を踏まえた上で、**仕事に限らず、私生活も含めて「キャリア」**であり、**その時々的人生を楽しむことで形成される**ものであると考えています。ディレクター時代と現在の一日のタイムスケジュールを比べると、以前は土日もなく働いていましたが、現在は土日が休みで、趣味の時間も確保できているとのことでした。

そして、学生へのメッセージとして、まず、**様々な経験をしたい**ことを強調されました。仕事だけでなく、恋愛なども含めた人生経験を積むことや、読書や人と

### 小林祥子氏(株式会社TBSテレビ 情報システム局)

の対話から想像・共感することを大切にして欲しいとのことでした。**人生には無駄なことは一つもなく、その価値の有無も後になってわかる**からです。また、放送メディアの仕事に携わる者として、「情報は必ず『誰か』が『ある立場』で発信している。鵜呑みせず、自分の頭で判断できる情報の目利きになろう」という提言がありました。どのような状況にあっても、「自分だったら何が出来るか」を常に考えること、「楽しもう」という心がけが大事です。周りを知ることは、自分を知ることにも繋がります。さらに、小林さんが社会人の先輩として、後輩によくするアドバイスは、「反省」はしてもいいが、「後悔」はしない、ということです。ミスをしたら、原因を探って同じ間違いをしないように対処を考えれば良いという温かいお言葉をいただきました。

講演後に行なわれた質疑応答では、テレビ局に勤めている人の文系・私立大学出身者の割合や、異動や現在の部署に関するもの、周りからの批判に対する対応、また「ミステリーハンター」になるためにはどうすれば良いか、など学生から様々な質問がありました。

受講者からは、「テレビ業界のリアルな話を聞くことができてとてもありがたかったです」、「情報がたくさん飛び交っているなかでも、正しく物事が判断できる知識や考えを大学で学んでいきたいです」などの感想がありました。

(文責:グローバルリーダーシップ研究所 大木・大持)



写真①  
講演者の小林祥子氏

写真②  
講演中の様子



## 岡垣さとみ氏(外務省 専門職員)

2017年度「お茶の水女子大学論」ロールモデル講演2(6月14日)は、文教育学部哲学科卒で、現在外務省に勤められている岡垣さとみさんをお招きし、入省当時から現在までの仕事内容やSDGs、日本の国際協力などについてご講演いただきました。なお、今回の講演は、グローバル協力センターの第2回SDGsセミナーとの同時開催でした。

岡垣さんは、外務省に専門職員として入省後、外務省員に必要な語学研修として、カナダ・クイーンズ大学大学院にて社会学修士課程を修了されました。現在も外務省で、文化交流、国連、人権、気候変動、国際協力、ヨーロッパ、大洋州、防災、ジェンダー、G7サミット等の業務に携わり、多方面に活躍されています。これまでの海外勤務地は、タイ、アメリカ(NY)、カナダです。

講演では、まず、外務省に関する基礎的な知識を教えていただき、さらに具体的な専門職員のキャリアの流れについてお話しいただきました。職場環境として外務省は、男女差によって仕事が区別されることがなく、育児休暇制度などのサポートも充実しているため、女性にとって働きやすい環境であるとのことでした。結婚や出産など将来のことを考えて、外務省入省の道を諦める人もいますが、岡垣さんは、自身の結婚・出産育児・単身赴任の経験から、**まず自分のやりたいことを追求していけば、周りの人のサポートも得て乗り越えられる**ことを強調されました。そして、外務省を目指す学生に対しては、そこが多くの可能性を提供してくれる、知的な刺激にあふれる職場であり、個人の自主性と積極性が尊重される場であると説明してくれました。また、その一方で、仕事では忍耐強さが求められ、さらに厳しい生活環境で仕事をすることが多く、精神的・体力的にタフでなければならないという現実的な側面も教えていただきました。

また、本講演の主題ともなっている、**SDGs (=Sustainable Development Goals)**、つまり**持続可能な開発目標**についてお話しいただきました。2001年から2015年までの期間で施行された、SDGsの前身であるMDGs(=ミレニアム開発目標)が、途上国の目標として8つのゴールとその下に21のターゲットを定め、国連の専門家らの主導に基づき施行されたものである一方、2016年9月に策定されたSDGsは、17ゴールと169

のターゲットに数個を大幅に増やし、**全ての国の目標として、193カ国の国連全加盟国で交渉した上で作成**されました。SDGsは、MDGsの1から6のゴールをさらに深堀りした点、そして先進国にも関わりの深い新たな課題を制定した点が特徴であり、その最も重要なキーワードは、“**Leaving no one behind**”つまり**「誰一人として取り残さない」**ことです。

特に、目標4「質の高い教育をみんなに」というのは、様々な目標に関わる重大な問題であることを指摘されました。とりわけ女子の就学率は低いのですが、勉強をすることは女子自身のためだけでなく、家族やコミュニティ、そして国の利益へとつながります。2016年に行なわれたG7伊勢志摩サミットでは、日本のコミットメントとして「**女子教育の普及が遅れている地域(アフリカ、南アジア)を中心に、学校建設等により約5万人の女子の学習環境を改善する**」ことを掲げ、現在支援しているところとのことでした。

講演後の質疑応答では、岡垣さんが外務省に入ろうと思ったきっかけや、外務省における総合職と専門職の具体的な違い、学生時代に勉強していた哲学が仕事に生かされているか、また、語学(英語)をどのように勉強していたのか、などの質問がありました。また、学生へのメッセージとして、「**自分の関心がある分野を一つ二つ極めることが大切**」、「**言葉はツール**であり、自分がそれを使って伝える、説得することで初めて意味を成すものである」などのお言葉をいただきました。

受講者からは、「他の授業で貧困や国際支援、教育について学んでいるため、今回の講義は大変参考になりました。外務省について詳しく知ることができたのも良かったです」、「『自分はいくらでも強い』という武器になるようなものをこれからの大学生活で突き詰めて勉強していきたいと思いました」などの感想が寄せられました。

(文責:グローバルリーダーシップ研究所 大木・大持)



写真③  
講演者の岡垣さとみ氏

## リーダーシップ教育・研究に関する海外高等教育機関との連携についての報告1 ～ベトナム 女性学院への訪問について～

2017年3月21日、リーダーシップ教育・研究に関する海外大学との連携のため、猪崎弥生副学長、小松翠特任講師、グエン・タイン・ガンさん(お茶の水女子大学博士前期課程在籍、通訳担当)の3名で、ベトナム ハノイ市のベトナム女性連合所属の女性学院(Vietnam Women's Academy)を訪問しました。

女性学院長のThuy Tran Quang Tien氏や、各学部の講師の方々との面会後、両大学における教育内容を互いに紹介した上で、今後の連携やその具体的な案について意見交換をしました。今後は、**ベトナム女性連合とベトナム女性学院の研究者との交流を通じて、リーダーシップ教育に関する共同研究会や、リーダーシップ教育の効果指標などに関する共同調査・研究を行う予定**です。



写真④ ベトナム女性学院での集合写真

# 「お茶の水女子大学論」:

## 秋篠宮妃紀子殿下 スペシャルレクチャー (2017.6.21)

2017年度「お茶の水女子大学論」スペシャルレクチャー(6月21日)では、秋篠宮妃紀子殿下をお招きし、大学生活、卒業後から現在までのお仕事やご研究についてお話していただきました。妃殿下は学習院大学にて心理学を専攻し、ご結婚後の平成7年に同大学院博士前期課程を修了されました。平成21年からは日本学術振興会名誉特別研究員として本学にて研究を再開され、平成25年に博士論文をご提出、博士号を取得されました。ご研究の分野は健康心理学で、主に結核を予防するための健康行動について、調査・研究を進めていらっしゃいます。そして、本年6月に本学人間発達教育科学研究所特別招聘研究員に就任されました。

授業の冒頭、室伏きみ子学長より妃殿下のご経歴と、今回ご登壇いただいた経緯について説明があり、学生が歓迎の声をあげる中で、妃殿下がご登壇されました。

妃殿下は学部生の頃、ご専門の心理学のほかに、文化人類学や国文学の授業を受講され、そこで学ばれた様々なことが現在のお仕事やご活動に繋がって

いること、また、妃殿下は「東南アジア青年の船」事業に参加され、若い世代の様々な国・地域の人たちと交流を持たれたこと、現在でも当時出会った方々との繋がりを大事にいらっしゃるということについて、たくさんの資料を示されながらご説明下さいました。ご講義の後半では、現在、総裁を務めていらっしゃる結核予防会でのお仕事やご研究、母子保健や子どもの本に関する国内外でのご活動などについてお話し下さいました。

最後に質疑応答の時間が設けられ、妃殿下より本学の学生への励ましのおことばもあり、「お茶の水女子大学論」の受講生は、妃殿下のお人柄や、結核予防に関する地道なご研究活動などに直接触れることができました。「大変感激いたしました」、「異なった環境や文化に直接触れることの大切さ(や感動)を改めて考えることが出来ました」、「結核については昔の話とと思っていましたが、今でも罹患している人がいると知って驚きました」など、感動と尊敬の気持ちのこもった感想が寄せられました。

(文責:グローバルリーダーシップ研究所 大木)



写真⑤ 室伏学長の挨拶の様子



写真⑥ 妃殿下ご講演の様子



写真⑦ 会場の様子

## リーダーシップ教育・研究に関する海外高等教育機関との連携についての報告2 ~韓国 梨花女子大学校開催 EWHA-LUCE International Seminar (ELIS) “EXPANDING HORIZONS”訪問について~

本学の協定校の一つである梨花女子大学校(韓国・ソウル市)において、ELISが2017年6月26日から7月13日まで開催されました。

ELISとは、梨花女子大学校とアメリカのHenry Luce財団がパートナーシップを組み、STEM分野(理工系の分野)の優秀な女子大学院生を韓国に招いて、18日間にわたって実施する研修プログラムで、梨花リーダーシップ開発院が運営・開催しています。今年で3回目を迎えました。

アメリカとアジア(本学からも1名が参加)から計23名の大学院生が集まり、“Leadership”、“Empowerment”、“Networking and Cultural Exchange”、“Establishing a New Vision”について集中研修を受けました。それぞれのプログラムは、ワークショップ、セミナー、パネルディスカッション、講義、フォーラム、文化交流・体験、社会交流、チームプロジェクトなどで構成され、すべて英語で実施されます。

梨花リーダーシップ開発院との交流を行っているグローバルリーダーシップ研究所(IGL)からは、

カレン・シャイア海外特別招聘教授、細谷葵特任准教授、金富美特任AFの3名がプログラムの一部に参加し、カレン・シャイア海外特別招聘教授は、パネルディスカッション「グローバルリーダーシップ」にて講演および討論も実施しました。

IGLは今後も、梨花女子大学校と研究者の交流、共同研究等、続けてまいります。

(文責:グローバルリーダーシップ研究所 金)



写真⑧ パネルディスカッション「グローバルリーダーシップ」の様子

**【お問合せ先】**

人間文化創成科学研究科棟506室

Tel/Fax: 03(5978)5520

E-mail: [info-leader@cc.ocha.ac.jp](mailto:info-leader@cc.ocha.ac.jp)

URL: <http://www.cf.ocha.ac.jp/igl/>